

# IX 文化財

1	文化財	115
2	生目の杜遊古館	123
3	佐土原歴史資料館	124
4	天ヶ城歴史民俗資料館	125
5	安井息軒記念館	126



# 1 文化財

## (1) 概要

本市では、昭和45年4月に宮崎市文化財保護条例を制定した。平成22年3月23日の清武町との合併に伴い、国指定史跡「安井息軒旧宅」が加わるなど、令和5年4月1日現在の指定文化財件数は、有形文化財58件、無形文化財2件、有形民俗文化財2件、無形民俗文化財18件、史跡49件、天然記念物23件、合計152件となっている。

文化財の保護顕彰については、市内の文化財を紹介する「新宮崎市の文化探訪マップ～文化財ツーリング～」や、遺跡発掘調査に伴う「埋蔵文化財発掘調査報告書」、文化財を紹介する市のホームページなどを、市民及び関係機関の利用に供している。また、学校教育との連携については、しらふじ文化財愛護少年団、船引文化財愛護少年団、中野文化財愛護少年団の3団体が、文化財愛護と環境保護意識の啓発活動に努めている。

史跡整備としては、国指定史跡の「生目古墳群」「佐土原城跡」「本野原遺跡」「穆佐城跡」「蓮ヶ池横穴群」について、それぞれの史跡の特徴を生かした保存整備事業を計画的に進めている。平成20年4月には「生目古墳群史跡公園」が開園した。現在も古墳の発掘調査や整備を進め、これまで、発掘調査現地説明会や「生目古墳群deピクニック」などのイベントを実施しながら史跡公園の活用を図っている。

平成21年4月に開館した「生目の杜遊古館」の埋蔵文化財センターでは、生目古墳群や市内の遺跡から発掘された考古資料の展示・解説や、普及啓発活動を行い、市民の埋蔵文化財に対する理解・関心を深めている。また、体験学習館では、古代文化体験などの活動を通して、健全な青少年育成を図っている。令和2年9月には、新たに歴史資料館としての機能が加わり、宮崎市の歴史や文化財を学べる、通史展示室、テーマ展示室、企画展示室がオープンした。

民俗芸能伝承事業としては、昭和62年度から民俗芸能の登録制度を設け、その掘り起こしと記録保存に努め、各地域に伝承されている民俗芸能に発表の場を提供する「みやざき民俗芸能まつり」を毎年開催し、市民が民俗芸能を鑑賞する機会を提供している（令和2、3年度はコロナウイルス感染拡大防止のため中止、令和4年度より再開）。

令和4年度の文化財に関する主な事業としては、生目古墳群史跡公園内の古墳の保存整備、佐土原城跡の災害復旧などの実施、本野原遺跡の史跡公園化に向けた整備、穆佐城跡の災害復旧と立木管理、蓮ヶ池横穴群の環境対策工事を実施した。

文化財の保護管理としては、「宮崎神社のオオシラフジ」などの天然記念物の保護治療、「アカウミガメ及びその産卵地」の保護調査を行うほか、公共事業・民間開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査を実施した。

文化財の公開活用としては、市民の文化財への興味・関心を深めるため、文化財施設の公開や企画展示、「蓮ヶ池史跡公園開園30周年イベント『蓮フェス』」、「MIYAZAKI山城クエスト」、「生目古墳群deピクニック」などの文化財を活用したイベントを実施するほか、社会科の教科書、副読本に則した内容の出前授業や教職員を対象とした研修や講座などの教育支援を行った。

(2) 指定文化財等一覧 (宮崎市の文化財 : 令和5年4月1日現在)

①国指定文化財

番号	種 別	名 称	所 在 地	指定年月日
1	重 要 文 化 財	木造薬師如来及び両脇侍像三軀	大字瓜生野 1068 番地 (王楽寺)	昭 19. 9. 5
2	〃	旧黒木家住宅	神宮 2 丁目 (県総合博物館屋外)	昭 48. 2. 23
3	〃	旧藤田家住宅	〃	昭 48. 2. 23
4	〃	木造騎獅文殊菩薩及脇侍像(五軀) 附木造天蓋一面	佐土原町上田島 767 番地 (大光寺)	昭 19. 9. 5
5	〃	乾峯土曇墨蹟 (六種)	〃	昭 40. 5. 29
6	〃	巨田神社本殿一棟 附棟札 22 枚	佐土原町上田島 10732 番地 1 (巨田神社)	昭 53. 5. 31
7	〃	木造神王面 (宝治二年銘) 附木造神王面 (天文五年銘)	大字生目 345 番地 (生目神社)	平 30. 10. 31
8	〃	木造乾峯土曇坐像 (一軀) 木造岳翁長甫坐像 (一軀)	佐土原町上田島 767 番地 (大光寺)	平 30. 10. 31
9	〃	宮崎県下北方五号地下式横穴墓 出土品	大字跡江 4200 番地 3 (生目の杜遊古館)	令 2. 9. 30
10	重要有形民俗文化財	日向の山村生産用具	神宮 2 丁目 (県総合博物館)	平 5. 4. 15
11	史 跡	生目古墳群	大字跡江字井尻ほか	昭 18. 9. 8 平 19. 2. 6
12	〃	蓮ヶ池横穴群	大字芳土字岩永迫	昭 46. 7. 17
13	〃	佐土原城跡	佐土原町上田島追手ほか	平 16. 9. 30
14	〃	本野原遺跡	田野町字本野原	平 16. 9. 30 平 18. 1. 26
15	〃	穆佐城跡	高岡町小山田 918 番地ほか	平 14. 3. 19 平 29. 10. 13
16	〃	安井息軒旧宅	清武町加納 (字中ノ尾) 甲 3368 番地 1	昭 54. 5. 22
17	特別天然記念物	青島亜熱帯性植物群落	青島 2 丁目 (青島神社境内)	昭 27. 3. 29
18	〃	内海のヤッコソウ発生地	大字内海字下大谷	昭 27. 3. 29
19	天 然 記 念 物	青島の隆起海床と奇形波蝕痕	大字折生迫 青島海岸ほか	昭 9. 5. 1
20	〃	内海のアコウ	大字内海字磯平 6227 番地 (野島神社境内)	昭 16. 10. 3
21	〃	宮崎神社のオオシラフジ	神宮 2 丁目 (宮崎神宮境内)	昭 26. 6. 9
22	〃	瓜生野八幡のクスノキ群	大字大瀬町 5714 番地 (八幡神社境内)	昭 26. 6. 9
23	〃	双石山	大字鏡洲	昭 44. 8. 22
24	〃	高岡の月知梅	高岡町高浜梅元 323 番地 2	昭 10. 12. 24
25	〃	去川のイチョウ	高岡町内山 3704 番地 1	昭 10. 12. 24
26	〃	清武の大クス	清武町船引 6622 番地 (船引神社境内)	昭 26. 6. 9

## ②県指定文化財

番号	種 別	名 称	所 在 地	指定年月日
27	有 形 文 化 財	木造阿弥陀如来坐像一軀	神宮 2 丁目 (県総合博物館)	昭 40. 8. 17
28	〃	米良の民家旧黒木幸見家住宅	神宮 2 丁目 (県総合博物館屋外)	昭 52. 4. 1
29	〃	椎葉の民家旧清田司家住宅	〃	昭 52. 4. 1
30	〃	土持文書	神宮 2 丁目 (県総合博物館)	昭 58. 1. 21
31	〃	妙円寺跡石塔群	大字浮田字中間 439 番地、440 番地	平 15. 10. 16
32	〃	金剛寺文書	大字芳土 2258 番地 3 (旧みやざき歴史文化館寄託)	平 18. 3. 23
33	〃	銅鰐口	神宮 2 丁目 (県総合博物館)	平 30. 9. 10
34	〃	木造地藏菩薩半跏像 (一軀)	佐土原町上田島 767 番地 (大光寺)	昭 40. 8. 17
35	〃	巨田神社摂社若宮社、今宮社	佐土原町上田島 10732 番地 1 (巨田神社)	昭 58. 1. 21
36	〃	五輪塔	清武町木原 6329 番地 1	昭 41. 7. 17
37	〃	旧二見家住宅	高岡町内山 3627 番地	平 30. 2. 26
38	無 形 民 俗 文 化 財	青島臼太鼓踊り	青島地区	平 18. 3. 23
39	〃	巨田池の鴨網猟	佐土原町上田島巨田地区	平 18. 3. 23
40	〃	船引神楽	清武町船引地区	平 3. 3. 15
41	〃	生目神楽	大字生目 345 番地 (生目神社)	令 4. 9. 8
42	史 跡	谷村計介旧宅跡	大字糸原下馬場	昭 8. 12. 5
43	〃	赤江町古墳	赤江地区一円	昭 8. 12. 5
44	〃	倉岡村古墳	倉岡地区一円	昭 8. 12. 5
45	〃	青島村古墳	青島地区一円	昭 10. 7. 2
46	〃	宮崎市大淀古墳	大塚地区一円	昭 12. 7. 2
47	〃	木花村古墳	木花地区一円	昭 12. 7. 2
48	〃	住吉村古墳	住吉地区一円	昭 14. 1. 27 昭 19. 12. 15
49	〃	宮崎市下北方古墳	下北方地区一円	昭 14. 4. 21
50	〃	生目村古墳	生目地区一円	昭 19. 12. 15
51	〃	瓜生野村古墳	瓜生野地区一円	昭 19. 12. 15
52	〃	池内横穴	平和が丘西町	昭 47. 5. 26
53	〃	船塚古墳	神宮 2 丁目 (宮崎神宮境内)	昭 52. 4. 1
54	〃	古月禪師分骨塔	佐土原町上田島 767 番地 (大光寺境内)	昭 9. 4. 17
55	〃	佐土原町古墳	佐土原町上田島字居穴口ほか	昭 10. 7. 2
56	〃	那珂村古墳	佐土原町東上那珂字牛ヶ迫ほか	昭 12. 7. 2
57	〃	広瀬村古墳	佐土原町下那珂七ヶ廻ほか	昭 14. 1. 27
58	〃	僧日講遺跡	佐土原町上田島今坂	昭 17. 6. 23
59	〃	去川の関跡	高岡町内山 (国道 10 号線敷)	昭 8. 12. 5
60	〃	高岡町古墳	高岡町花見	昭 17. 6. 23
61	〃	清武上猪ノ原遺跡	清武町船引 5582 番地 1	平 27. 2. 23
62	天 然 記 念 物	アカウミガメ及びその産卵地	こどものくに南端から大炊田海岸	昭 55. 6. 24
63	〃	天林寺のオハツキイチョウ	新別府町麓 418 番地 (天林寺境内)	昭 60. 12. 17

### ③市指定文化財

番号	種 別	名 称	所 在 地	指定年月日
64	有形文化財	木造六観音像	大塚町城ノ下 2825 番地 (長久寺)	昭 48. 3. 12
65	〃	舞楽面陵王	大字新名爪 4449 番地 (新名爪八幡宮)	昭 48. 3. 12
66	〃	木造阿弥陀如来立像一軀	大字熊野 9508 番地 (木花神社)	昭 49. 4. 15
67	〃	木造十一面観音立像一軀	大字広原 4406 番地 (畑公民館)	昭 49. 4. 15
68	〃	木喰行道筆 南無薬師如来書画幅一軸	大字金崎 914 番地 (朝倉寺)	昭 58. 3. 16
69	〃	木喰行道作 千手千眼十一面観音立像一軀	大字有田 (個人)	昭 58. 3. 16
70	〃	下郷遺跡出土絵画土器	大字跡江 4200 番地 3 (生目の杜遊古館)	平 14. 10. 28
71	〃	生目神社木造神面 (二面)	大字生目 345 番地 (生目神社)	平 16. 3. 29
72	〃	商家「旧阪本家」	佐土原町上田島 1601 番地 2	平 12. 5. 23
73	〃	二ッ建天神社天満縁起絵詞	佐土原町下田島 8202 番地 1 (佐土原歴史資料館寄託)	平 17. 10. 26
74	〃	梅谷橋 (石橋)	田野町梅谷	平 15. 6. 10
75	〃	黒草水路橋	田野町楠原	平 15. 6. 10
76	〃	河上家武家門	高岡町内山 2700 番地	昭 54. 1. 24
77	〃	高岡名勝志	高岡町内山 3003 番地 56 (天ヶ城歴史民俗資料館)	昭 54. 1. 24
78	〃	練士館の扁額	〃	昭 54. 1. 24
79	〃	高岡郷土高帳	〃	昭 61. 1. 20
80	〃	市来家長屋門	高岡町五町 354 番地	平 9. 6. 19
81	〃	安藤家武家門と石垣	高岡町五町 266 番地	平 10. 4. 16
82	〃	赤谷橋	高岡町浦之名字赤谷 (県道赤谷橋山線道路敷)	平 14. 8. 12
83	〃	鶴木橋	〃	平 14. 8. 12
84	〃	木造弘法大師像	大塚町城ノ下 2825 番地 (長久寺)	平 20. 12. 1
85	〃	安井文庫 29 点	清武町加納甲 3378 番地 1 (安井息軒記念館)	昭 45. 7. 23
86	〃	弥勒寺六地藏塔	清武町船引字柿ノ木田 (赤道)	昭 53. 9. 8
87	〃	神宮寺六地藏塔	清武町船引	昭 53. 9. 8
88	〃	内山寺仁王像	清武町船引 1592 番地	昭 53. 9. 8
89	〃	安井息軒衣服 18 点	清武町加納甲 3378 番地 1 (安井息軒記念館)	昭 53. 9. 8
90	〃	安井息軒書簡	〃	昭 53. 9. 8
91	〃	炎尾権現御本地文書	〃	昭 56. 2. 1
92	〃	船引神社雲竜巻柱	清武町船引 6622 番地 (船引神社)	昭 61. 3. 31
93	〃	黒坂観音仁王像	清武町木原 6329 番地 1	昭 61. 3. 31
94	〃	黒坂観音厨子	〃	昭 62. 12. 11
95	〃	千手観音自在菩薩	〃	昭 62. 12. 11
96	〃	秋葉大権現像	清武町加納甲 3378 番地 1 (安井息軒記念館)	平 22. 2. 3
97	〃	神崎家武家門 附石垣 3 基	高岡町内山字大手迫 2818 番地	平 26. 5. 12
98	〃	長野家武家門 附石垣 2 基	高岡町内山字雁ヶ峰 2801 番地 3	平 26. 5. 12

番号	種 別	名 称	所 在 地	指定年月日
99	有 形 文 化 財	濱田家武家門 附石垣3基	高岡町五町字井ノ上129番地	平26. 5.12
100	〃	吉富家武家門 附石垣2基	高岡町内山字中村2879番地	平26. 5.12
101	〃	大光寺文書	佐土原町上田島767番地(大光寺)	令2.12.21
102	無 形 文 化 財	高岡の鶴賀新内	伝承者 鳥越フミ子氏 (市指定無形文化財保持者)	平9. 6.19
103	〃	高岡じょっさい	〃	平10. 4.16
104	有形民俗文化財	花見神楽の面	高岡町内山3003番地56 (天ヶ城歴史民俗資料館寄託)	平14. 8.12
105	無形民俗文化財	木花相撲踊り	大字熊野	平3. 5.21
106	〃	下北方六月踊り	下北方町	平15. 3.28
107	〃	巨田神楽	佐土原町上田島巨田地区	平5. 3.25
108	〃	曾我兄弟踊り	佐土原町下田島大炊田地区	平7.11. 8
109	〃	佐賀利いろは口説踊り	佐土原町下田島佐賀利地区	平10. 2.26
110	〃	田野町雨太鼓	田野町一円	昭49. 9.26
111	〃	鷺瀬地区城攻め踊り	田野町上鷺瀬・下鷺瀬地区	平11. 7. 9
112	〃	船引白太鼓踊り	清武町船引地区	昭45. 7.23
113	〃	船引破魔太鼓	〃	昭61. 3.31
114	〃	中木原破魔太鼓	清武町中木原地区	昭61. 3.31
115	〃	黒坂・永田破魔太鼓	清武町黒坂・永田地区	昭61. 3.31
116	〃	はまくだり歌	清武町木原地区	昭61. 3.31
117	〃	野島神楽	大字内海6227番地(野島神社)	平25.10.31
118	〃	高屋神社神楽	村角町橘尊1975番地(高屋神社)	平28. 3. 3
119	史 跡	城ヶ崎俳人墓碑並びに板碑群	恒久3丁目20番地13	昭47. 3.10
120	〃	広原横穴第1号(線刻壁画)	大字広原字菅牟田7594番地	昭57. 2.12
121	〃	小村薬師堂石塔群	大字生目字一丁田3100番地 大字生目字一丁田3094番地丙 (小村薬師堂)	昭63. 8.25
122	〃	島津家久・豊久公墓二基	佐土原町上田島西野久尾(天昌寺跡)	昭54. 4. 1
123	〃	佐土原藩島津家御廟所(高月院)	佐土原町上田島8079番地(高月院境内)	平16. 8.20
124	〃	佐土原藩島津家御廟所(大光寺)	佐土原町上田島767番地(大光寺境内)	平16. 8.20
125	〃	野田泉光院の墓	佐土原町上田島757番地3	平17.10.26
126	〃	仏堂園群像仏	田野町甲9730番地	平15. 6.10
127	〃	龍福寺仁王尊	高岡町内山頭本瀬	昭54. 1.24
128	〃	去川関所御定番二見家墓石群	高岡町内山前田	昭54. 1.24
129	〃	八代藩主島津久豊の墓	高岡町小山田山子3574番地2	昭54. 1.24
130	〃	天ヶ城址	高岡町内山2375番地2ほか	昭54. 1.24
131	〃	高木兼寛生誕地	高岡町小山田太良山2465番地1・2465番地2	昭63. 4.18
132	〃	稲津掃部助の墓	清武町加納甲1003番地	昭45. 7.23
133	〃	清武城趾	清武町加納甲776番地2・777番地2	昭45. 7.23
134	〃	伊東家僑墓	清武町加納丙1474番地	昭53. 9. 8

番号	種 別	名 称	所 在 地	指定年月日
135	史 跡	伊東祐堯公墓	清武町船引（個人）	昭 53. 9. 8
136	〃	歴代安井家墓地	清武町加納丙 1474 番地	昭 53. 9. 8
137	〃	河崎権助の墓	清武町加納甲 1941 番地 47	昭 53. 9. 8
138	〃	蓮徳寺墓碑群	清武町加納丙 1393 番地	昭 53. 9. 8
139	〃	玄松院開山の碑	清武町加納甲 3377 番地 2	昭 61. 3. 31
140	〃	河崎駿河守墓	清武町加納丙 1474 番地	昭 61. 3. 31
141	〃	山内石塔群	清武町木原 6327 番地 1・6325 番地 1	昭 63. 3. 31
142	天 然 記 念 物	生目神社のオガタマノキ	大字生目 345 番地（生目神社境内）	昭 48. 3. 12
143	〃	生目神社のクスノキ	〃	昭 48. 3. 12
144	〃	倉岡小学校のシロバナフジ	大字糸原 538 番地（倉岡小学校内）	平 10. 8. 3
145	〃	はぜ馬場のはぜ並木	佐土原町下田島新城・佐賀利	昭 54. 4. 8
146	〃	名木いちょう	田野町乙 3317 番地 6	昭 53. 3. 1
147	〃	ヤマザクラ（天神）	田野町乙 300 番地 14	平 17. 12. 2
148	〃	島津忠国の誕生杉	高岡町小山田麓 940 番地 2	昭 54. 1. 24
149	〃	高岡町のヤッコソウ自生地	高岡町小山田（国有林内）	平 17. 12. 19
150	〃	船引神社のヤッコソウ	清武町船引 6622 番地（船引神社境内）	昭 45. 7. 23
151	〃	紅梅	清武町船引（個人）	昭 48. 7. 26
152	〃	琉球豆柿	清武町加納甲（個人）	昭 48. 7. 26

#### ④国登録文化財

番号	種 別	名 称	所 在 地	指定年月日
①	有 形 文 化 財	宮崎神宮神殿	神宮 2 丁目（宮崎神宮境内）	平 22. 1. 15
②	〃	宮崎神宮幣殿	〃	平 22. 1. 15
③	〃	宮崎神宮渡殿	〃	平 22. 1. 15
④	〃	宮崎神宮神饌所	〃	平 22. 1. 15
⑤	〃	宮崎神宮御料屋	〃	平 22. 1. 15
⑥	〃	宮崎神宮透間垣	〃	平 22. 1. 15
⑦	〃	宮崎神宮拝所	〃	平 22. 1. 15
⑧	〃	宮崎神宮正門	〃	平 22. 1. 15
⑨	〃	宮崎神宮玉垣	〃	平 22. 1. 15
⑩	〃	宮崎神宮石柵	〃	平 22. 1. 15
⑪	〃	宮崎神宮徴古館	〃	平 22. 1. 15
⑫	〃	黒北発電所	清武町船引 3544 番地	平 9. 5. 7
⑬	〃	池田家住宅主屋	別府町 53 番地 1	平 24. 2. 23
⑭	〃	奈良家住宅主屋	旭 1 丁目 106 番地	平 25. 12. 24
⑮	〃	奈良家住宅別棟	〃	平 25. 12. 24
⑯	〃	松浦家住宅石蔵	大字柏原字高野迫 986 番地イ	平 28. 2. 25
⑰	〃	松浦家住宅門柱及び石堀	〃	平 28. 2. 25



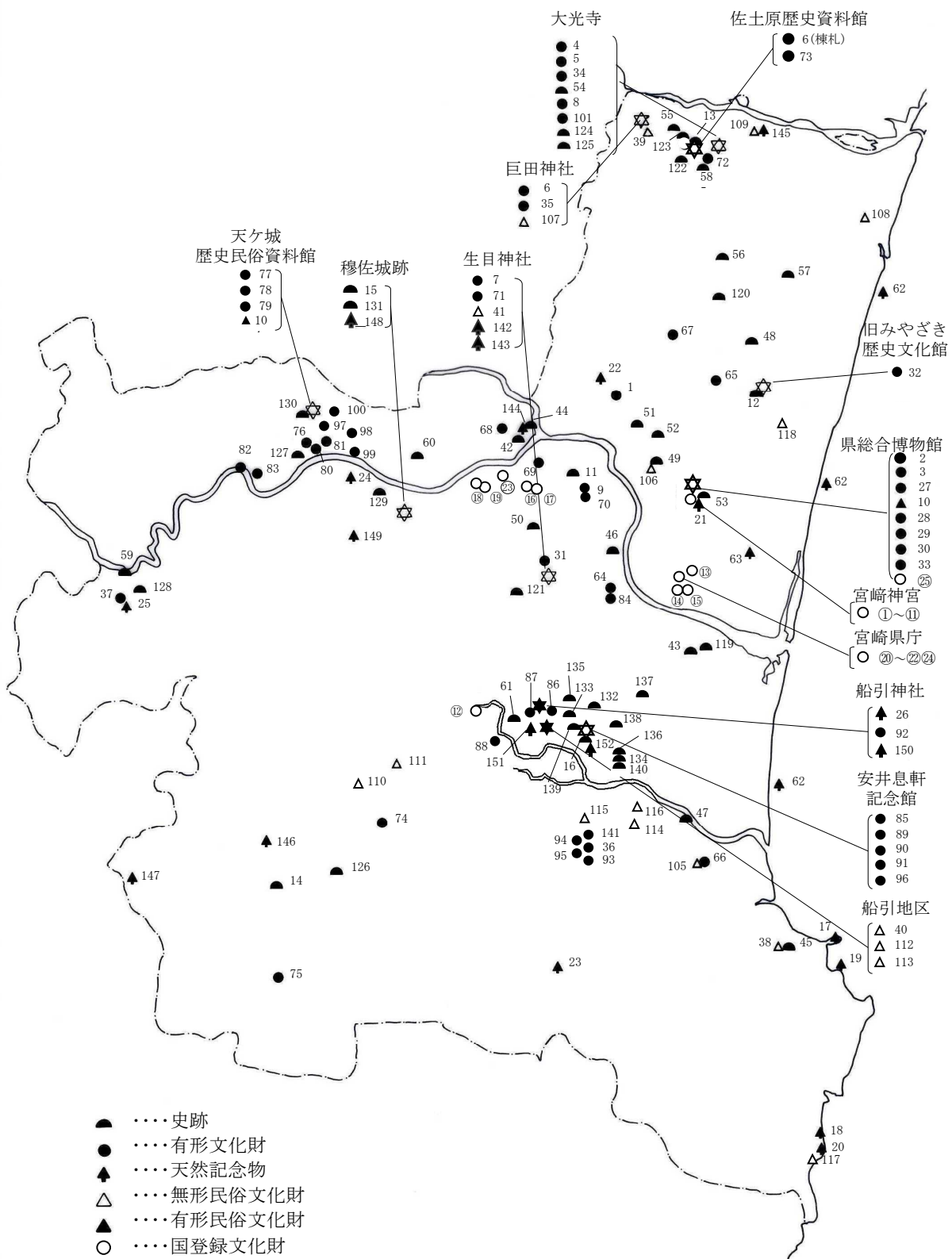
番号	種 別	名 称	所 在 地	登録年月日
⑮	有 形 文 化 財	土器屋家住宅石蔵	大字富吉 4869 番地 3	平 28. 2. 25
⑯	”	土器屋家住宅石塀	大字富吉 4869 番地 2 他	平 28. 2. 25
⑰	”	宮崎県庁舎本館	橋通東 2 丁目 35 番地	平 29. 5. 2
⑱	”	宮崎県庁舎正門門柱	”	平 29. 5. 2
㉑	”	宮崎県庁舎東門門柱	”	平 29. 5. 2
㉒	”	青木橋	大字富吉	平 29. 5. 2
㉓	”	旧宮崎農工銀行（宮崎県庁 5 号館）	橋通東 1 丁目 44 番地	令 3. 10. 14
㉔	記 念 物	賀来飛霞標本	神宮 2 丁目（県総合博物館）	平 22. 8. 5

#### ⑤宮崎市の指定文化財内訳

種 別	国指定	県指定	市指定	合 計
重要文化財（有形文化財）	9	11	38	58
重要有形民俗文化財（有形民俗文化財）	1		1	2
無形文化財			2	2
無形民俗文化財		4	14	18
史跡	6	20	23	49
特別天然記念物	2			2
天然記念物	8	2	11	21
合計	26	37	89	152

#### ⑥宮崎市の登録文化財内訳

種 別	登録
有形文化財	24
記念物	1
合計	25



宮崎市内指定文化財分布図(令和5年4月1日現在)

## 2 生目の杜遊古館

埋蔵文化財センターと体験学習館の施設を有する宮崎市の埋蔵文化財の調査・研究と整理・保管、普及啓発活動の拠点施設。

埋蔵文化財センターの展示室1では、旧石器時代から近現代に至る宮崎市域の歴史について、展示室2では国重要文化財に指定された「下北方5号地下式横穴墓出土品」について、展示室4では、隣接する国指定史跡生目古墳群や宮崎市内の遺跡から出土した埋蔵文化財について展示・紹介している。また、展示室3では、年数回、宮崎市の歴史や文化にちなんだ企画展を行っている。

体験学習館では、古代文化体験のほか親子で楽しめる各種体験ができる。

### (1) 施設の概要

区 分	埋蔵文化財センター	体験学習館
所 在 地	宮崎市大字跡江 4200 番地 3	
敷 地 面 積	19,907.2 m <sup>2</sup>	
建物延床面積	2,499.9 m <sup>2</sup>	1,324.98 m <sup>2</sup> (体験学習棟)
建 物 構 造	鉄筋コンクリート造 平屋建て	鉄骨造平屋建て
建 設 費	719,873 千円	303,753 千円
休 館 日	月曜日、祝日の翌日（但し、土・日曜日、休日に当たる日を除く）、 12/29～1/3	
開 館 日	平成 21 年 4 月 25 日（展示室リニューアル:令和 2 年 9 月 19 日）	
開 館 時 間	午前 9 時 ～ 午後 4 時 30 分（入館は午後 4 時まで）	
入 館 料	無料	

#### ①埋蔵文化財センター

宮崎市の文化財に関する「調査・研究」「整理・保管」「公開・活用」を目的とした施設である。センターでは、隣接する生目古墳群を中心に、下北方5号地下式横穴墓出土品や国指定史跡・本野原遺跡の資料など、原始から近現代にかけての各種文化財を展示し、また、埋蔵文化財センターでの報告書作成業務の公開も行っている。

#### ②体験学習館

古代文化体験、創作活動ができる体験学習施設。

〈体験学習棟〉多目的室、体験工房、調理実習室、食堂、シャワー室

〈その他〉炊飯棟、多目的広場

### (2) 事業の概要

#### ①令和4年度実績

- ・総入館者数 21,865人(大人 15,647人 小人 6,218人)
- ・開館日数 300日
- ・一日平均利用者 73人

#### ②企画展、講座、イベント等の開催

企画展として、10月に「ブック・ブック!-いろんな書物大集合-」と題し、江戸中期から戦後までの書籍(和綴本や雑誌、教科書、漫画等)の展示を行い、1月には「国富・綾の文化財」と題し、宮崎市及び広域圏内の各地域に焦点を当てた展示を行った。

講座として、古文書講座を初級者編3回と中級者編5回、専門家を招いての歴史文化講座を10回、学芸員による小物づくり講座を4回、及び宮崎市教育委員会文化財課の専門職員による宮崎市内の遺跡や遺物に関する講座を5回開催した。その他、子どもたちが昔の生活を体験することによってSDGsを学ぶレッツタイムワープ in 遊古館を5回実施し、特別講座として歴史夜話 in 遊古館を2回開催した。

イベントについては、ディキャンプを夏冬の2回実施したほか、こどもの日の特別企

画や生目古墳まつりと連携したイベントを実施した。

体験学習として、古代生活体験（勾玉作り、はにわ作り等）、自然体験（草木染め等）及び野外体験（野外炊飯等）を18回実施した。

### 3 佐土原歴史資料館

佐土原歴史資料館は、鶴松館と商家資料館からなる。そのうち鶴松館は寛永年間の佐土原城二の丸跡に資料館として建設され、有形文化財指定の商家資料館「旧阪本家」とともに、佐土原地域の数々の資料に触れることができる。

また、資料館敷地を含む佐土原城跡については、自然の地形を利用した中世の典型的な山城と江戸時代に利用された平城の両方が残っており、平成16年に国指定文化財（史跡）となっている。南九州では他に類を見ない天守を備え、金箔瓦を使っていたことなどが明らかになっている。

#### （1）施設等の概要

区 分	鶴 松 館	商家資料館「旧阪本家」
所 在 地	佐土原町上田島 8227 番地 1	佐土原町上田島 1601 番地 2
敷 地 面 積	3,264 m <sup>2</sup>	150.5 m <sup>2</sup>
建物延床面積	535.15 m <sup>2</sup>	140.36 m <sup>2</sup>
建 物 構 造	木造平屋建て	木造2階建て
建 設 費	941,403 千円	17,000 千円
休 館 日	月曜日～金曜日（休日に当たる日を除く。5/15～6/14 は休館日なし）、12/29～1/3	
入 館 料	無料	
開 館 日	平成5年6月1日	平成13年7月2日
展 示 の 要	大広間、書院、数寄屋の三棟からなる。大広間では、佐土原人形や、掛け軸、鎧冑などを常設展示している。 書院では、展示資料室として、山城天守台跡から発掘された鯪瓦や、南九州最大の「下村窯跡」出土須恵器、山城立体模型、国指定重要文化財「巨田神社の棟札」、西郷札など古代から近代にかけての資料を展示している。 数寄屋は島津家由来の家具調度品を展示している。	阪本家は、江戸時代から続いた味噌・醤油醸造を営む旧商家で、現在の建物は隆盛を極めた明治38年に建てられ、二列通り庭造りの典型的な町屋造りである。 普通の町屋は、間口三間の奥に長い形をしている（入母屋造りの妻入り型）が、阪本家は「重層入母屋造りの平入り」型である。 平成12年5月に、「有形文化財」に指定されている。（宮崎市指定）

#### （2）事業の概要

##### ①令和4年度実績

- ・総入館者数 7,970人(大人 6,198人 小人 1,772人)
- ・開館日数 138日
- ・一日平均利用者 58人

##### ②企画展、体験学習等の開催

「藩主の履歴書！」と題し、令和4年5月15日（日）から6月14日（火）の期間、佐土原藩歴代藩主とその代に起きた事件や出来事について紹介する企画展を行った。

体験学習として、城下町佐土原に古くから伝わる工芸品等の製作及び伝統文化の体験、佐土原城や城下の史跡巡りを実施した。

## 4 天ヶ城歴史民俗資料館

平成5年に高岡地区の桜の名所、天ヶ城公園内にオープンした天ヶ城歴史民俗資料館は、高岡地域の文化遺産（歴史・考古・民俗）を保存・研究している。その成果は、展示や講座などを通して普及・促進しており、地域文化の向上に寄与している。

### (1) 施設の概要

所在地	宮崎市高岡町内山 3003 番地 56
建物延床面積	1,432.28 m <sup>2</sup>
建物構造	鉄筋コンクリート 4 階建て
建設費	876,000 千円
休館日	月曜日～金曜日（休日に当たる日を除く。3/15～4/14 は休館日なし）、12/29～1/3
開館日	平成5年11月6日
入館料	無料

#### 【展示の概要】

天ヶ城歴史民俗資料館の展示は、大淀川とともに生きてきた高岡地区や人々の生活ぶり、かつて薩摩藩の武家集落である麓の一つとして栄えた武家社会のあり方、その他高岡地区の歴史、風土、産業などを映像やジオラマなどによって分かりやすく紹介している。

1 階展示コーナーは、民俗資料や帆掛け舟などによって、大淀川と高岡地区の関わりについて、分かりやすいガイド展示となっている。また、玄関ホールは、企画展示のコーナーで、高岡地区の歴史・考古・民俗についてさらに詳しく紹介している。

2 階展示コーナーは、「川が培ったもの」というテーマで、高岡地区の歴史について、南北朝時代の穆佐院の頃から江戸時代の高岡郷・穆佐郷までの社会の移り変わりを中心に紹介している。特に、江戸時代の高岡郷の一日を再現したジオラマ模型は、当時の人々の暮らしを具体的に知ることができる展示となっている。

3 階展示コーナーは、「川と営み」というテーマで、かつて高岡地区でよく見かけられた中二階の家を再現するなど、高岡の民俗を分かりやすく展示している。

4 階からは、「川が生み出したもの」というテーマで、大淀川を中心とした現在の高岡地区の様子が一望できる。

### (2) 事業の概要

#### ①令和4年度実績

- ・総入館者数 14,472 人(大人 9,169 人 小人 5,303 人)
- ・開館日数 138 日
- ・一日平均利用者 105 人

#### ②企画展、体験学習等の開催

企画展として、『何が起きた!!地域の歴史展』と題し、高岡に関する古文書などの実物資料や画像などをわかりやすく解説・展示した。

体験学習として、水鉄砲づくりやミニ門松づくりなど昔ながらの製作を中心に、子どもとその保護者を対象に実施した。

また、高岡歴史かるた会が作成した高岡町にまつわる事柄を札とする「高岡歴史かるた」の普及のため、講師を招いて、かるた遊びを行った。

さらに、授業支援事業「暮らしを支えた昔の道具」を実施し、宮崎市広域圏内の小学校を対象として要請のあった学校を訪問して、昔の道具の取り扱い方をはじめ、道具の解説などを行った。

## 5 安井息軒記念館

安井息軒記念館は、平成 11 年度に開催された幕末を代表する儒学者・安井息軒の生誕 200 年祭の挙行によって、さらに活発となった彼の顕彰活動の一環として建設された。記念館では、息軒に関する資料の展示や管理を中心に、宮崎平野の南部に位置する旧清武郷の歴史や文化等の紹介を行い、また、隣接する国指定史跡「安井息軒旧宅」の公開と管理も行っている。さらに茶室「香梅庵」の管理や貸し出しも行っている。

### (1) 施設の概要

所在地	宮崎市清武町加納甲 3378 番地 1
敷地面積	4,329 m <sup>2</sup>
建物延床面積	1,131.52 m <sup>2</sup>
建物構造	鉄筋コンクリート 2 階建
建設費	495,647 千円
休館日	月曜日、休日の翌日(但し、土・日曜日、休日にあたる日を除く)、 12/29～1/3
開館日	平成 14 年 9 月 23 日
入館料	無料

#### ① 展示の概要

安井息軒記念館では、「安井息軒」と「清武の歴史」を紹介している。安井息軒展示室では、「文久の三博士」と称された彼の生涯と業績について、直筆の書籍や遺品等の資料を交えて紹介している。宮崎市中心部から太平洋まで見渡せる展望室では、清武城跡や曾井城跡などの中世城郭をはじめ古代・中世の清武に関する資料を、その眺望を活かす形で紹介している。また、廊下展示では、息軒の江戸期における活躍を紹介し、加えて旧清武郷木花出身の刀工「井上真改」作の日本刀を特別ブースにて展示している。

#### ② 茶室「香梅庵」

香梅庵は、日本の伝統文化である茶道の普及を目的に建てられた施設で、一般への貸し出しも常時行っている。約 10 坪の茶室は入母屋造りの草庵式茶室で、4 畳半の小間と水屋に寄合待合が付設されている。また、外露路には腰掛待合が設けられ、内露路にはつくばいと石灯籠が配置されている。

#### ③ 国指定史跡「安井息軒旧宅」

安井息軒の生家で、天保 2(1831)年安井家が飢肥へ転居するまで父滄洲らとともに息軒はここで暮らしていた。転居後他者の所有となったものの紆余曲折を経て大正 12 年に公有化され、昭和 54 年には国の史跡に指定された。その後、発掘調査や聞き取りの結果をもとに、平成 5 年には史跡整備が行われた。さらに令和元年度には耐震補強、茅葺き替え等を含めた保存修理工事が行われた。

### (2) 事業の概要

#### ① 令和 4 年度実績

- ・総入館者数 7,712 人 (大人 5,555 人 小人 2,157 人)
- ・開館日数 302 日
- ・一日平均利用者 25 人
- ・施設利用 香梅庵 132 件 (552 人)

## ② 各種講座、イベント等の開催

講座は、「安井息軒記念館講座」を6回実施。例年息軒の命日である9月23日に開催している安井息軒記念講演会は清武文化会館半九ホールを会場に、宮崎大学教育学部准教授が「安井息軒は、『温故知新』をどのように解釈したのか」という演題で開催した。同日、同施設において午後を「息軒の日」と銘打ち、半九ホールを中心に、安井息軒顕彰書道・絵画・似顔絵展やその表彰式、自由研究の発表、清武小学校児童による息軒劇や書道吟・詩舞、息軒かるた、仲平豆つかみ体験などを展開した。

夏・秋の企画展は「安井夫人 ～お佐代さんとお槇さん」と題し、森鷗外著『安井夫人』で戦前の教科書等にも再三登場したお佐代さんと、そしてもう一人の安井夫人で、佐代亡きあと息軒を懸命に支えた後妻の槇さんにも焦点を当てた展示を行った。

冬の企画展は「明治の息軒 ～迎へた明治時代 輝キラ増ス息軒 ソシテ今」と題し、明治期江戸において自らの学問の集大成を図り、当時の政治家や学者、知識人たちにさまざまな影響を与え、没後も幾多の書籍が出版されるなど大きな影響を与えた息軒に焦点を当てた展示を行った。実際に史料に「見て触れられる」企画展を実施し、息軒が晩年認めたキリスト教の批判書『弁妄』関連展示も行った。

その他夏季中に「安井息軒顕彰書道・絵画・似顔絵展」、「安井息軒自由研究作品展」を開催。12月に「息軒探訪バスツアー」を開催し、飢肥藩の中心地飢肥を訪ね、リニューアルされた「小村寿太郎記念館」や「飢肥城歴史資料館」を見学した。3月は息軒を育んだ中野や南加納の史跡を訪ねる「安井息軒ふるさとウォーク」を開催した。

また記念館のホームページや息軒だより等により県内はもとより国内外への情報発信を行い、企画展チラシ配布範囲の拡大を図った。ホームページの年間アクセスは17,000件、検索件数は年間141,000件を記録した。